

アルコールは尿酸を作りやすくして尿酸排泄を低下させます。また痛風発作は夏に多いのですがこれは汗をかいて脱水が起こり尿量が減って排せつが低下しその結果尿酸値が高くなる為です。

症状はご存じのとおり足の指の付け根が痛み、ひどいと真っ赤に腫れて歩くこともできなくなります。この痛みは前兆があり何となくムズムズした感じの半日くらい後に本格的な痛みが出ます。そのほか足関節やひざ関節に痛みとはれが来ることもあります。

酒の中でも痛風になりやすいのはビールです。ビールの酵母をフィルターでろしたプリン体ゼロとかいうものもありますし蒸留酒は比較的良く、ワインが最も良いといわれていますが量にもよるようです。

治療は昔はコルヒチンという薬を使っていたのですが今は非ステロイド性抗炎症薬を、ひどい時はステロイドホルモンを使います。大切なことは発作の時は尿酸を下げる薬は使いません。発作が治まってから使用します。

一番良い予防法は菜食主義でお酒を飲まないことですがなかなか難しいことです。



2018～2019年度のための地区研修・協議会報告 (稲垣圭次次期幹事)

◎第1部第1分科会／第2部第2分科会

日比野万喜男 次期会長

第1部第1分科会 (クラブ管理部門)

テーマ：ロータリーを楽しみ、

会員基盤を強化しましょう！その1

第2部第2分科会 (クラブ管理部門)

テーマ：クラブからロータリーについて発信しよう



皆さん、こんにちは。

次年度会長の日比野です。私の方からは、本会議と、第1部第1分科会、第2部第2分科会の報告をいたします。

前半の本会議は、神野ガバナーから、「会員増強が順調」ということと「公共イメージ向上に対する会員の方の努力に感謝します」という挨拶に始まり、加藤次期地区研修リーダーの挨拶、村井ガバナーエレクトの地区方針の説明がありました。

村井ガバナーエレクトの話の冒頭は、“地区方針説明を、地区各委員会、RLI研修、PETSなどで聞かれた方にとっては、同じ説明が今回で何回目かになることにふれ、1967年のRI第368地区協議会での斉木亀次郎さんの講演「牧師さんと羊の毛を洗うお婆さん」の話を出され、聞いては忘れ、聞いては忘れながら、水で洗われるカゴの中の羊の毛がきれいになっていくように、同じことを何回も聞いていくうちに、少しずつ自分自身が磨かれていく、心が磨かれていくという

ことを判っていただければ有難い”というものでした。

そして、バリー・ラシン RI 会長テーマ「インスピレーションになろう」は、「私たち自身がこのロータリーの活動を前進させる活力になろう」ということであり、それが地区活動方針「あなたの街でロータリーを！あなたの街からロータリーを！」ということである、と言われ地区方針を説明されました。

今回の地区研修・協議会は、1部・2部に分かれています。その理由は、第2750地区の水野パストガバナーの講演を出席者全員に聞いていただくためということでした。

私が出席しました第1部第1分科会のテーマは、「ロータリーを楽しみ会員基盤を強化しましょう！その1」ということで、村井ガバナーエレクトの挨拶のあと、水野パストガバナーの講演で始まりました。その内容は、5点程ありまして、

1. 水野パストガバナーのロータリーとの出会いということで、
 - ・おじいさんが、飛火野 RC のチャーターメンバーで、子供の頃からロータリーに憧れていた。
 - ・1989-1990年度 RI 会長ヒュー・M・アーチャーさんの時に入会し、「ロータリーを楽しもう」のテーマのもと、ゴルフや酒を楽しんでいたが、最近は「ロータリーを楽しもう」をロータリー活動に参加して行動して初めて楽しいと思うようになった、とのことでした。
 - ・ロータリーライフの中で大切にしてきたのは、例会100%出席、役職は断わらない、ロータリー知識の教育の必要性である、と言われていました。
2. ロータリーの歴史を創設時より振り返り、説明をされました。
3. 水野パストガバナーにとってのロータリーの心と原点として、サービスとフェロウシップを挙げられました。サービスとは、奉仕活動をするということより、世のため人のために役立つ心を持つことであり、フェロウシップとは、サービスの心を共有する良い仲間が存在が必要である、良い仲間をつくること、と言われていました。
4. 2016年規定審議会での決議内容については、ロータリークラブにとって大切なことは何か、自分にとって変化してはいけないことは何かを考え、方向を決めていけば良く、サービスの心を忘れないこと、サービスの心を持った良い仲間を持つことが大事ということをお願いして欲しい、と言われていました。
5. ロータリーは何処へ向かうのかということで、現在全世界での会員数120万人のネットワークは大きく、創設期とは比較にならない程ロータリーの重要性は大きくなっているといわれ、今後も、その重要性は増大していく、と言われました。

最後に結論として、「ロータリーの本質を忘れずにクラブ会員をインスパイアし、モチベートして、つまり、会員の心を鼓舞し、興味を持ってもらって、クラブ強化につなげましょう」ということで結ばれ、第1部第1分科会が終了しました。

第2部第2分科会のテーマは、「クラブからロータリーについて発信しよう」ということで、各委員会からお話がありました。

1. 会員増強について、次期地区会員増強委員会 澤田委員長より、

クラブが楽しくなければ、知人に入会をすすめられないとか、やめていく人がいるとかになるので、まずクラブを楽しむ必要がある。又、増強委員長を複数年努めて増強の成果を上げているクラブもあるので、見習う必要もある。

という話がありました。

2. 危機管理と個人情報の取扱いについて、次期地区危機管理委員会 神戸委員長より、ロータリアンやその周辺の人達が犯罪などのトラブルに巻き込まれないようにする必要がある。何かあったら危機管理委員会へ連絡して欲しい。という話がありました。
3. 地区予算について、次期地区 池田会計長より報告がありました。
4. ワールドフードフェスタについて、次期地区 WWF 委員会 福田副委員長より、この事業の目的は、
①収益金による人道的奉仕活動
②ロータリーの公共イメージ向上
であり、次年度は今年の 10 月 27 日(土)、28 日(日)の両日に開催されると説明がありました。その際、①企業広告協賛と、②2,000 円の協賛チケットの購入に関するお願いが例年と同じくありました。
5. クラブ会員の研修・教育について、次期地区研修委員会 古田副委員長より、会員は、ロータリーの魅力を知らないまま、退会していき人が多い。例会と奉仕活動を通じ、ロータリーの魅力を創出していただければ有難いです。

という話が最後にあり、第 2 部第 2 分科会が終了しました。

続いて、後半の本会議があり、今回の地区研修・協議会のまとめについて、村井ガバナーエレクトより、「研修」とは、研修リーダーが、先輩風をふかせたり知識をふりかざしたりするものではなく、皆が持っている情報を皆が持てるようにする、情報を共有することであり、それをもとに皆が手をつないで、頑張っ

- ・2018-2019 年度 蒲郡地区大会の案内
- ・次期地区研修・協議会ホストクラブ発表、ホストクラブ豊川 宝飯 RC 挨拶

- ・研修リーダー加藤陽一パストガバナーの講評
- ・ホストクラブのお礼の言葉

があり、閉会となりました。今回の研修・協議会は、一方通行の感が例年と同じようにはありましたが、例年に比べ変化があり、大変良かったというのが私の感想です。

以上で地区研修・協議会の報告とします。どうもありがとうございました。

* * * * *

◎第 1 部第 1 分科会／第 2 部第 3 分科会

藤井友喜 次期社会奉仕委員長

第 1 部第 1 分科会 (クラブ管理部門)

テーマ：ロータリーを楽しむ、

会員基盤を強化しましょう！その 1

第 2 部第 3 分科会 (社会奉仕・環境保全部門)

テーマ：社会奉仕活動・環境保全活動・RCC 活動について

4 月 15 日の地区研修・協議会についてのご報告をさせていただきます。

私は次年度、社会奉仕委員会ということで、第 3 分科会の社会奉仕、環境保全部門に出席して、地区社会奉仕委員会の皆様より次年度の方針等を聞いて参りましたのでご報告させていただきます。



この分科会は、社会奉仕、環境保全、RCC (ロータリーコミュニティコア) の三つの項目について説明がありました。

まず社会奉仕部門では、各クラブのさまざまな社会奉仕活動のサポートを行っていくということはもちろんありましたが、一つの内容で防災についての話がありました。昨年、地区大会にて 2760 地区は愛知県と防災協定を取り交わしました。そういったことから、各クラブにおいても各地域の防災活動に積極的に関わってほしいとのことです。これも、大きな社会奉仕活動であり、今後、想定される東南海地震などの大地震における備えは大変重要なことであるとのことでした。

次は、当クラブの地区社会奉仕谷定副委員長にご説明いただきましたが、環境保全についての活動です。中でも、生物多様性について、2010 年に愛知で開催されました会議、COP10 にて今後 10 年間に国際社会が生物多様性の保全と持続可能な利用を進めていくための目標が採択され 2020 年の計画目標達成をめざしてロータリーもそれに関わって行くとの事です。細かな内容については、次年度開催されます、社会奉仕、環境保全委員長会議で愛知県の環境関係の部署より説明、解説を行う予定であるとのことでした。

そしてもう一つは、地域社会共同体 RCC についてです。RCC はロータリークラブがスポンサーとなり、ロータリークラブと協力して活動するロータリアン以外の人からなるグループ、奉仕のパートナーです。青少年問題、高齢者対策、社会福祉、環境保全などのさまざまな問題の改善、地方の伝統文化や、芸能の継承、保存、など地域に密着した活動に取り組んでいます。こちらにも、詳細は後日、『RCC 事業セミナー』と題してもう少し掘り下げた内容で説明会を開催する予定なので、RCC を考えたいと思っていられるクラブの皆さんは是非、ご参加をお願いしたいとのことでした。

以上が主な内容ですが、その他としまして、地区社会奉仕委員会では次年度も開催されます WWF で事業の、部分的な運営をする中、各地の『ゆるキャラ』の楽しいステージアトラクションを企画しているので観光 PR や地域の PR になると思いますので、ぜひ参加をお願いします。とのことでした。

以上でご報告を終わらせていただきます。

◎第1部第1分科会／第2部第4分科会
 福富孝弘 次期国際奉仕委員長
 第1部第1分科会（クラブ管理部門）
 テーマ：ロータリーを楽しみ、
 会員基盤を強化しましょう！その1
 第2部第4分科会（国際奉仕部門）
 テーマ：グローバル補助金の活用



地区研修・協議会第4分科会国際奉仕部門はテーマを「グローバル補助金の活用」として開催されました。まず初めにリーダーの鈴木次期地区国際奉仕委員長より挨拶と活動方針発表があり、その後アシスタントリーダーの木村次期地区国際奉仕副委員長よりグローバル補助金について詳しく説明がなされました。

グローバル補助金はロータリークラブの国際的活動として1.人道的プロジェクト2.奨学金（大学院レベルの留学）3.職業研修チーム（VTT）に使用でき、クラブの規模にかかわらず、資金ゼロでも使える補助金として広く活用されております。グローバル補助金の内訳としては地区補助金やVTTなども同じ仕組みであります。当地区（2760地区）の3年前の財団への寄付金がRIより拠出され、使われなかった余剰金は再度RIに戻るといいう仕組みなので、是非有効に使ってほしいとの事でした。

グローバル補助金の申請が承認されるには色々な条件がありますが、中でも①平和と紛争予防／紛争解決②疾病予防と治療③水と衛生④母子の健康⑤基本的教育と識字率向上⑥経済と地域の発展、の「6つの重点分野」の何れかの該当が必要です。また支援活動が終わった後も、地域の人たちが自力で長期的持続ができるよう計画を含んでなくてはなりません。申請は年度を通じて随時することができ、申請が受理された順に審査が行われます。通常は6月に申請～財団の承認が10月頃でMYロータリーから簡単に電子申請出来るようです。当地区からの現在の申請クラブは、名古屋RCがインド、名古屋大須RCが台湾、名駅RCがバングラディッシュ、刈谷RCと豊橋RCがタイで国際的支援活動を計画しており、クラブによっては毎年申請しているところもあるようです。

終わりに、まだまだ世界にはこのグローバル補助金を求めている人や国があると思うので是非活用して頂き、実りある国際奉仕活動をして下さいとのことでした。我が犬山ロータリークラブもそろそろ挑戦しますか？

以上、第4分科会の報告とさせていただきます。

◎第1部第1分科会／第2部第7分科会
 保浦博志 次期職業奉仕委員長
 第1部第1分科会（クラブ管理部門）
 テーマ：ロータリーを楽しみ、
 会員基盤を強化しましょう！その1
 第2部第7分科会（職業奉仕部門）
 テーマ：ロータリーの「職業奉仕」について



- ・ロータリーの職業奉仕について卓話
 アシスタントリーダー 太田達夫さん
- ・各クラブの職業奉仕委員会について
 次期地区職業奉仕副委員長 小川耕示さん
- ・分区ごとアンケートをもとに意見交換
 職業奉仕例会は、卓話、優良従業員表彰、職場訪問例会、健康診断、中学校への出張授業など
 職場例会主など
 メンバー職場訪問・取引先職場訪問 高齢者施設・ビール工場・消防署・障害者施設・給食センター
 ・ボーリング場・モーターボート選手訓練所など見学
 =まとめ=
 職場例会として、見学や懇親を目的になっていませんか？施設や職場を訪ねることが目的でなくその企業の姿勢、社会的役割やビジョンを知ることによりロータリーの原点である「職業奉仕」の理念を確認することが、第一の目的ではないか？
 勤続表彰として消防署、警察などの表彰を「職業奉仕」として行うクラブもありました。ただ単に表彰することが目的になっていないのか？なぜ表彰されるのかを職業奉仕の観点から会員に理解頂くべきではないか？
 1月は「職業奉仕月間」であることを重視し、会員全員で「職業奉仕」を深く考えるのも良いのではないのか？ 社会奉仕、国際奉仕、青少年奉仕と職業奉仕との違いをクラブメンバー同士で語っては如何？
- ・所見
 次期西名古屋分区ガバナー補佐 渡邊一平さん

今回の分科会において気づかされたこと
 「四つのテスト」

- 1.真実かどうか
 - 2.みんなに公平か
 - 3.好意と友情を深めるか
 - 4.みんなのためになるかどうか
- 「みんな」とは、クラブ会員と理解していた自分。しかしそれは、自分基準で仕入れ先、お客様、社員などを指していることを認識にしました。